

(試験研究課題年次別解説集様式3号：完了課題用)

# 関東・東海海域における沿岸海況の短期予報研究

(予算区分 国庫受託 研究期間 平成17~19年)

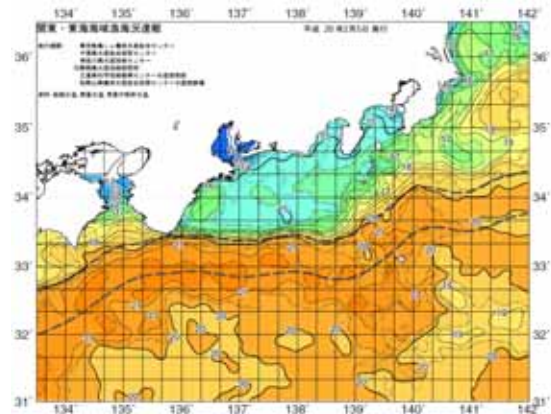
担当：漁業開発部資源海洋研究室  
伊豆分場

## 【研究の背景とねらい】

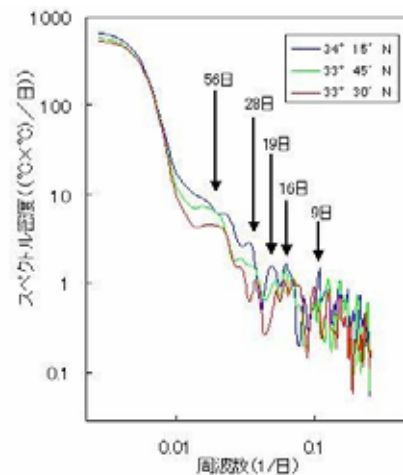
現在の衛星を利用した海況図は実測水温との整合が不十分で、雲の影響により情報の提供が不定期となっています。そこで、関東・東海海域の各県水産研究機関や大学と連携して、衛星による水温と実測水温との合成技術を開発し日単位の高精度な海況図を作成するとともに、沖合・沿岸の海況変動を明らかにして急潮等の短期予報システムの開発・実用化を図ります。

## 【研究成果】

- ・実測水温や NOAA 水温等を利用した高精度な海況図を作成する技術を開発しました。
- ・その技術を用いた海況図が、既存の海況図よりも正確に海洋変動を表していることを確認するとともに、ホームページなど通して試行的に継続して発行しました。
- ・新たな海況図について漁業関係者などから意見を収集して、作成手法を改良しました。
- ・都県水産研究機関による、データ共有から海況図作成発行に至るシステム及び運用体制を確立しました。
- ・黒潮内側域の水温変動周期が黒潮離岸距離から求めた黒潮流路の変動周期と概ね一致していることが確認されました。
- ・千葉県～和歌山県の沿岸 28 か所で水温や流れの連続観測を行い、黒潮系急潮、台風系急潮をそれぞれ 3 回観測しました。
- ・駿河湾、相模湾での黒潮系急潮について、神津島の潮位上昇と波勝崎沖の水温上昇が前駆現象として扱うことができることを確認しました。
- ・台風系急潮が発生した時の風や潮位変化の特徴を把握しました。
- ・黒潮系及び台風系急潮の予報と対策を整理し、研修会などを通して業界へ情報提供しました。また定置網安全対策情報を作成し、定置網漁業者へファクシミリにより情報発信を試行しました。



新しく開発した海況図(試行版)



御前崎沖の水温変動周期

## 【研究成果の普及方法】

- ・毎日、高精度な海況図を作成し、ホームページやファクシミリ、各種研修会などを通して情報発信します。さらに、携帯電話による情報提供も行い、海況図の普及を図ります。
- ・急潮等の沿岸海況の短期予測を行います。

(作成 平成20年3月)